

令和2年度 さいたま市立海老沼小学校 学校関係者評価書

さいたま市立海老沼小学校

学校関係者評価委員長 松本 英人

1 学校関係者評価の実施体制

(1) 構成人数 12人

(2) 実施回数 3回（紙面で行った2回分を含む）

2 学校関係者評価（学校関係者評価委員の意見等）

- 外出制限があるせいか、児童が運動をすることに対して、消極的であると感じる。少なくとも学校では、子どもたちが進んで運動に取り組めるアイデアや手だてが必要である。
- 児童アンケートの回答は、肯定的なものが多かった。子ども達がコロナ渦で活動が制限されているにもかかわらず、楽しく学校に通えているのは、教職員の努力のたまものといえる。引き続き努力してもらいたい。
- 困難な場面に出くわしたときに、先生に伝えられない児童の割合が昨年度よりも増している現状が見られる。担任が学級で「困ったことがあったら、先生に話す」指導を継続するのはもちろんだが、子どもが担任だけでなく友達同士でも話しやすい雰囲気や環境づくりを継続してほしい。また、子どもの話により耳を傾けてほしい。
- 保護者へのアンケート結果から、「いじめ」や「保護者との連携」に関する質問に「わからない」と回答している保護者が例年よりも多くいた。原因としては、参観や懇談の中止により、子ども達の学校の様子を保護者が見る機会がほとんどなく、情報が保護者に伝わらなかったことが考えられる。コロナ渦の影響はあると思うので、できる範囲で学校の教育活動を「見える化」していく必要がある。
- 「学校の様子が見えない」という意見はあるが、学校は情報公開に努めている。令和3年度以降も状況が不透明であり、保護者が子ども達の学校の様子を知る機会が制限されると考えられるので、ぜひ引き続き、こまめな学校ホームページのアップや学校だよりの充実を図ってもらいたい。それによって、保護者の安心感につながっていく。
- 学校からの情報発信も重要であるが、家庭で保護者から子どもに学校での様子を聞くことも大切であると考えられる。子どもと親がコミュニケーションをとる機会を設けることで、子どもの生の声も聴ける。ぜひ学校から勧めてほしい。

学校関係者評価を受けた学校の対応

- 今年度は特に、全校で行う体育的行事の実施に制限があったので、取り組む上で多くの困難があったが、日にちや場所を分けて、海老沼タイムを実施し、継続することで体力の維持を図った。また、運動発表会も実施することができた。来年度以降も実施に際して、例年通りとはいかない点が出てくるのが考えられるので、今年度の体育的行事で出てきた成果と課題をしっかりと見直し、来年度以降の計画に反映させていきたい。
- 子どもたちが困りごとを安心して教員に相談するためには、学校や教室が子ども達の「居場所」であることが大切である。教員と子ども達だけでなく子ども達同士の信頼関係を築いていく。そのためには、普段から友達とのかかわり合いについての見守り、指導を重ねて行うことが必要である。また、日々の授業の充実も心がける。導入されたタブレット等も最大限活用して、子ども達にとって「わかりやすい授業」を日頃から行うよう、教材研究に努める。同時に、指導と評価の一体化を図る。
- コロナ渦の影響があるとはいえ、個別の質問に「わからない」と答えている保護者が多くいるということは、教職員が思っている以上に学校の様子が伝わっていなかったということである。新入学児童保護者向けの資料を学校ホームページにアップして、いつでも見られるようにしたように、これまでは紙で出していた他の便りも同様にアップしたり、子ども達の学校の活用の様子の写真をより多くアップしたりしていく。また、保護者から子どもに学校での様子を聞くことについては、懇談会等で投げかけていきたい。

さいたま市立海老沼小学校長 宮本 江津子